

第3回留学生・若手外国人研究者交流セミナーの開催報告

中部支部では、平成26年1月11日（土）、名古屋都市センターにおいて、中部地域の大学で都市計画等を専攻する留学生ならびに若手外国人研究員を招き、留学生・若手外国人研究者交流セミナーを開催した。当日は、名古屋大学・村山顕人准教授の総合司会のもと、片木 篤 中部支部長（名古屋大学）の挨拶の後、国際交流委員長 福島茂教授（名城大学）から趣旨説明が行われ、ベトナム・アルジェリア・フランス・アフガニスタン・インドネシアからの留学生や若手研究者が、自国の都市計画や現在取り組んでいる研究成果を発表した。発表会后、日本福祉大学・吉村輝彦教授のコーディネートにより参加者（学生、学会関係者、行政等）との意見交換会が行われた。本報告では、参加者の発表概要をまとめた。

1. ベトナム・ホーチミンにおける都市マスタープランの変遷に関する研究（Nguyen Lam /ベトナム/名古屋工業大学大学院）

ベトナム南部のホーチミン市の1993年、1998年、2010年の一連の都市マスタープランの変遷とともに、計画を経た都市構造等の課題（開発軸と実際の市街化方向が不整合であること、交通システムの開発が急速な人口増加に追いついていないことなど）が報告された。また、こうした課題を受け、2010年の新しいマスタープランでは、多極分散型の都市構造を目指していることが紹介された。

2. 街路の複雑性の予測（Mansouri Ahmed/アルジェリア/名古屋工業大学大学院）

RMS コントラストと呼ばれる画像処理を用いた街路景観の視覚的な複雑性に関する発表者の一連の研究成果が報告された。撮影した道路画像の分類や処理等の解析手法の解説とともに、日本とアジアの街路景観構成の特性、研究成果の街路設計への応用方策等が報告された。



発表者：左から Gregorius Prasetyo Adhitama（インドネシア/名古屋大学大学院）、Karina Borodai（フランス/名古屋大学大学院）、Nguyen Lam（ベトナム/名古屋工業大学大学院）、Hamdard Noor Agha（アフガニスタン/豊橋技術科学大学大学院）、Mansouri Ahmed（アルジェリア/名古屋工業大学大学院）

3. 大都市モスクワについて（Karina Borodai/フランス/名古屋大学大学院）

国際コンペにて採用されたフランス人建築・都市計画家によるアントワヌ・グランバック、ジャン=ミシェル・ヴィルモットの「大モスクワ計画」の内容が紹介された。公共交通機関網と拠点配置の関係、「森の中の都市、都市の中の森」と呼ばれる景観コンセプト、旧市街地の緑地計画、南西地区の土地利用等がビジュアルで紹介された。

4. カブール都市圏の都市計画（Hamdard Noor Agha/アフガニスタン/豊橋技術科学大学大学院）

アフガニスタンの首都カブールの都市化動向、都市インフラの課題、インフォーマルな居住地問題等が報告された。また、カブール都市圏の中長期のマスタープランのコンセプト・目標、既存市街と新市街地の都市計画、道路ネットワーク計画等が紹介された。

5. 企業建築デザインと場所の関係：インドネシアの事例研究（Gregorius Prasetyo Adhitama/インドネシア/名古屋大学大学院）

インドネシア企業の自社建築設計基準が、場所の固有性に与える影響の評価・可能性について、発表者の研究成果が報告された。具体的な建物事例を対象にした詳細なデザイン要素等の分析を通じて、企業建築デザインが、企業活動、社会的な連携・規範、地域資源との関係性があることが報告された。

（文責 三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株) 永柳 宏）